

切花の 日持ち向上性 対策BOOK

生産者さんの「思い」が
切花の市場拡大につながります。



広島花きイノベーション事業推進協議会



切花の消費拡大に向けて 日持ち向上に取り組みませんか

日本の花き栽培技術は、世界でもトップクラス。採花後の作業にも栽培同様にこだわりを持って、消費者によりよい品質の切花を届けていきましょう。

1 採花からのスピードが命

収穫から30分以内に水切りと保冷を行うことが、日持ちを伸ばす鍵です。前処理剤を用いねば、もっと切花が長持ちします。

採花



朝夕の涼しい時間帯に収穫することが大事です。

前処理



収穫後すぐに、水切りをします。

保冷



花を前処理剤を入れた水につけます。鮮度低下を予防するため、低温の場所に置きます。



水切り時の前処理が特に大切

水・前処理剤

地下水ではなく、水道水を使用。適切な前処理剤(花に養分を与え、水中のバクテリア繁殖を防ぐ)を選び、水に加えます。



ルミノメーター

水中にバクテリアが繁殖し、清浄度が下がると花の持ちが悪くなります。簡単に清浄度が測定できるルミノメーターがあると便利です。



バケツ・ハサミ

バケツは使用後に洗い、乾燥させます。重ねて保管しないこと。ハサミも使用後は乾燥させ、定期的に消毒しましょう。



生産者さんの管理 重要ポイント

予冷

収穫後や出荷前に切花を冷やし、花の呼吸量を下げ、鮮度を維持。

衛生管理

灰色かび病などの防止へ、清掃の徹底とバケツやハサミの洗浄・消毒を。

前処理

収穫したらすぐ水切り。前処理剤を使い、下葉の除去なども実施。

品種選定

花持ち性が改良された品種を選ぶと、さらに日持ちが改善。

2 選花場は25℃以下に

夏は特に、選花場の室温に注意。25℃以下に保てば花の鮮度が落ちません。また、採花から2日以内に出荷するスケジュールを組みましょう。

選花



清掃を徹底した空間で、消毒されたハサミを用います。

3 出荷前は3時間以上保冷

切花はしっかり冷やしてから出荷。輸送時には花持ち剤を使用し、水質を清浄に保ちつつ切花に栄養を与えると、日持ちがよくなります。

出荷



日よけなどを設置し、切花に直射日光が当たらないようにします。

コストダウンのアイデア ～少量の溶液で効果を～

小さなバケツを併用

花をつけておく大きなバケツとは別に、小さなバケツを準備。小さなバケツだけに前処理剤を入れれば、溶液を節約できます。



衣装ケースを改造

側面に穴を開け、通気性を高めた衣装ケースで花を保冷。底に水を入れる小さな容器を取り付け、少量の花持ち剤で水質を清浄に保ちます。

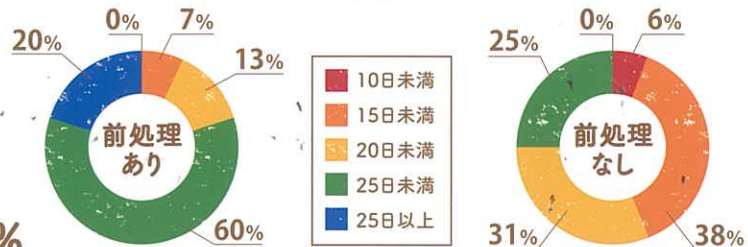


「前処理をした切花」と「していない切花」 消費者に比較実験をしてもらいました

広島消費者協会の皆さんが、花持ち向上のための前処理の効果を検証。前処理をした切花の方が日持ちがよく、さらに「つぼみが早く開き、長い間観賞できた」「花も葉もピンとしていた」という感想をいただきました。

前処理をした切花の方が
きれいに開花したと思う人 **81%**

日持ち日数の比較



花き日持ち品質管理認証制度 生産部門 認定基準の活用を



認証マークは
出荷箱や
シール等に
利用可能

花き業界全体で日持ち性向上への意識を高めるため、認証制度が発足しました。
まずは認定基準のチェックリストを参考に、作業手順を見直してみませんか。

ハウス(圃場)

- ハウス(圃場)は清掃されている

採花

- 朝、夕の気温の低い時に採花している
- 採花から30分以内にバケツに入れる
- 気温25℃以上なら30分以内に冷蔵庫へ

前処理バケツ

- 容器はルミノメーター1,000RLU以内
- 適正な前処理剤を使用
- 水道水使用。バケツの水を適宜交換
- バケツは清潔な場所に保管

選花場

- 清掃されている
- 温度は25℃以下

ハサミ

- 洗浄してルミノメーター1,000RLU以内に

保管庫

- 適正温度は10℃以下

滞留日数

- 採花から出荷まで2日以内

出荷前冷蔵

- 3時間以上冷蔵

輸送時花持ち剤

- 適正な花持ち剤を使用

出荷所までの輸送

- 5~15℃で直射日光に当てない

採花日記録

- 採花日の記録がされている

お客様対応

- 商品の情報発信、評価の情報収集
- クレーム処理(対応を含めて記録)
- 栽培記録(農薬・肥料使用量を記録)

※上記は認証要件を一部抜粋したものです。
認定基準を7割以上満たす産地は、現地審査を経て
認証取得が可能です。
詳しくはMPS ジャパン株式会社ホームページを確認を。
<http://www.mps-jfma.net/>





花に関する消費者データ

50%以上の人々が花を購入しない時代に

2018年の調査で、50%以上の人々が花を購入する機会がないと分かり、特に若い世代で消費が低迷。また20代・50代女性の過半数は「花はすぐに枯れるから買わない」と考えています。若年層へのアピールと、切花の日持ち対策が、消費拡大に有効だと考えられます。

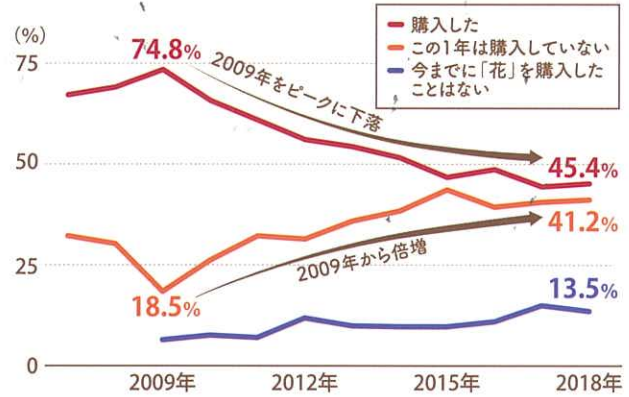
花を買わない理由

- 1位 すぐに枯れて、持たない
- 2位 価格が高い
- 3位 水を換えるのが面倒

※出典 / MPS ジャパン 2018年版 花と野菜、環境に関する調査



最近1年間の花購入率の推移 2005～2018年



※出典 / MPS ジャパン 2018年版 花と野菜、環境に関する調査

花き業界の課題と、解決へのアプローチ

個人需要を伸ばす

現状では飲食店などの業務需要が70%を占め、売上は景気動向に大きく左右されます。個人需要を伸ばすことが、安定した市場を確保するために欠かせません。

新しいニーズを作る

母の日や入学・卒業式などの祝いごとや、お供え用に頼っているのは、消費は増えません。新しい「お花のニーズ」を作って、切花の消費を伸ばしましょう。

女性に花を贈る文化を

欧米では、切花がさりげないプレゼントの定番です。女性に花を贈る文化を根付かせれば、若年層・男性が花を購入する機会が増えると考えられます。

家庭に花を飾る文化を

欧米では、切花の約70%が個人消費です。日本でも、自宅に花を飾る習慣が定着すれば、もっと花の市場が拡大するはずです。

切花の日持ちを伸ばす

生産者と仲卸、小売店が連携して品質管理を徹底し、切花の日持ちを伸ばすことが、消費拡大への最大の対策になります。

花の特性や「効能」をPR

花やグリーンを見るとストレスが軽減されるという研究結果があります。花が心身の健康に有用なことをPRすれば、需要喚起につながります。

日持ちをよくすれば、切花の消費拡大は可能
生産者の出荷量増加、収入アップに直結



産地・市場・小売が連携して 切花の日持ちを改善しましょう

種苗



※ECAS ジャパン 花き日持ち品質管理認証審査官 本多氏資料より引用

世界の
切花市場

輸入花が増加中



栽培適地から 低価格で出荷

アフリカのケニア、南米のコロンビアといった栽培適地から、バラやカーネーションなどの輸入が増加。大量の切花が低価格で、通年出荷されています。

国内産に負けない 鮮度を実現

技術向上や輸送網の効率化により、輸入花の品質・鮮度は急激に向上。日本の産地が市場を守るには、切花の日持ちを良くする取り組みが不可欠です。

専門家の声

お花をもっと 楽しんでもらうには？

お客さまの声に「花はすぐ枯れる」があります。日持ち性向上は、購入いただいた花をお客さまに少しでも長く楽しんでいただくということです。そしてリピーターになってもらう。その繰り返しが、花きの消費拡大につながります。

日本フローラルマーケティング協会/
MPS ジャパン株式会社 代表取締役社長
松島 義幸

動画の活用も

最近、デジタルサイネージ（電子看板・ディスプレイ）を設置する店舗が増加。産地の様子や栽培状況などを撮影し、動画で流せます。消費者に、花を大切に栽培する様子をアピールすることも大切です。

株式会社JF兵庫県生花 常務取締役 吉田 智

発行／2019年3月

発行者／広島花きイノベーション事業推進協議会

事務局／株式会社 花満（広島市中央卸売市場中央市場花き部）

広島市西区草津港1丁目8-1 TEL082-279-2611